

第32回鳥取県・岡山経済同友会合同懇談会

- 1 日 時 令和7年12月3日（水）13:00～
- 2 場 所 懇談会：新見市役所 南庁舎3階 大会議室
視 察：備北粉化工業株式会社 唐櫃鉱山
懇親会：哲多 食源の里 祥華
- 3 出席者 鳥取県経済同友会 21名
岡山経済同友会 21名
神戸経済同友会・西播部会 5名
- 4 懇談会



【石田新見市長の歓迎挨拶】



【懇談会出席者】



【岡山経済同友会 中島代表幹事挨拶】



【鳥取県経済同友会 米原代表幹事挨拶】

懇談会の冒頭、地元の石田新見市長が歓迎の挨拶をされました。新見市は岡山県内で面積が2番目に広いが、人口は市としては2番目に少ない、産業は石灰産業が牽引役となっていることなどを話されました。

続いて、岡山経済同友会の中島代表幹事が挨拶と活動報告、鳥取県経済同友会の米原代表幹事が挨拶と東部地区の活動報告、細田代表幹事が西部地区の活動報告（中部地区の活動報告は、福井副代表幹事が懇親会の場で行う次回開催地挨拶の中でされました。）、神戸経済同友会の神原代表幹事が挨拶と活動報告をされました。

続いて行われた講演会は、新見商工会議所会頭 田中康信氏が「中山間から未来を描く～持続可能な地域経済モデルを目指して～」と題して話されました。

田中氏は明治大学卒業後、県外に就職したが、父親の会社である田中実業株式会社を引き継ぐことになり、新見市に戻ってきたこと、他の経営難の会社を次々に引き受け、事業を拡大していったことなど、自身に関わることをまず話されました。

演題に関わる話は、新見市は人口がどんどん減少しており、コンパクトシティ化が必要であること、石灰などの地域資源を活用して、他の町にはない・簡単に真似のできないものを磨き上げる必要があること、日本最古の蔓牛を先祖にもつ新見市の特産「千屋牛」をもっとPRすべきこと、鉱山閉鉱後の食品貯蔵、レストラン等への活用構想、森の駅での障がい者の就労支援、中心市街地の課題と今後の展開等、新見市の進むべき道等を分かりやすく話された。



【講演会の様子】

5 視察



唐櫃鉱山内で参加者集合写真

備北粉化工業株式会社の唐櫃鉱山視察では、マイクロバスで坑内に入り、その広さにまず驚きました。ダイナマイトで爆破しながら掘り進めるそうで、大型の作業機械を使った石灰石の積み込みの実演は圧巻でした。

6 懇親会



【鳥取県経済同友会 細田代表幹事挨拶】



【鳥取県経済同友会 福井副代表幹事挨拶】

懇親会場の「哲多食源の里 祥華」は、山の中にある静かなたたずまいの食事処でした。

懇親会の開会挨拶は、鳥取県経済同友会 細田代表幹事でした。乾杯の音頭は神戸経済同友会西播部会の赤鹿部会長でした。この日はとても寒く小雪が舞っていたことから、帰りの心配をしながらも各テーブルは、にぎやかに盛り上がっていました。

懇親会終了前に行われた次回開催地挨拶では、鳥取県経済同友会 福井副代表幹事が中部地区の提言のきっかけとなったエピソードを交えて面白おかしく話されました。

懇親会の閉会挨拶は、岡山経済同友会の加藤代表幹事が行い、散会となりました。